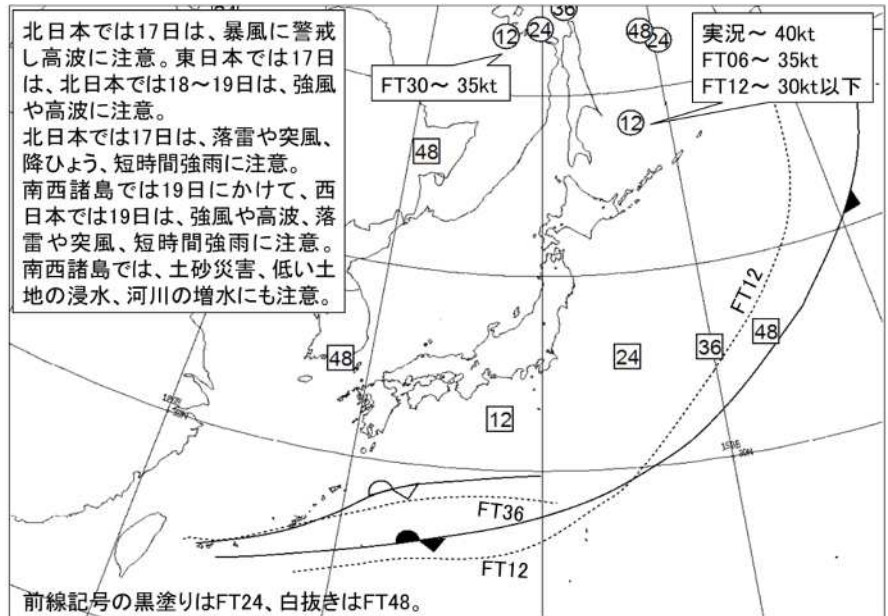


1. 実況上の着目点

- ① 北日本に500hPa 5400m以下の-21℃以下の寒気を伴う寒冷渦があり、北東進。寒冷渦に対応して、低気圧が北海道付近にあって北東進。また、別の低気圧が17日09時にオホーツク海で発生し、北北東進。低気圧の近傍の北日本では対流雲が発達し、発雷を検知し、1時間に20mmの強い雨を解析。
- ② 前線が日本の南から千島の東にかけてのびている。
- ③ ①や②の前線や低気圧と日本の南に中心を持つ高気圧との間で、気圧の傾きが大きくなっており、北～東日本では非常に強い風が吹き、波が高く、しけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦に対応する北海道付近の低気圧は、17日夜までに不明瞭となる。オホーツク海の低気圧は、18日にかけてオホーツク海を北北東進。低気圧近傍では、上空の寒気や湿った空気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では17日は、落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ② 2項①の低気圧および18～19日にアムール川下流からオホーツク海に進む低気圧と、1項③の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、北～東日本では、非常に強い風が吹き、波が高く、しけとなる所がある。北日本では17日は、暴風に警戒し高波に注意。東日本では17日は、北日本では18～19日は、強風や高波に注意。
- ③ 18日から19日にかけて、500hPa 5820m付近で-12℃以下の寒気を伴ったトラフが東シナ海から西日本に進む。一方、日本の東に中心を持つ高気圧の縁をまわって、850hPa θ_e 336K以上の下層暖湿気が南西諸島や西日本に流入する。このため、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。また、1項②の前線は南西諸島付近までのび、高気圧との間で気圧の傾きが大きくなる。南西諸島では19日にかけて、西日本では19日は、強風や高波、落雷や突風、短時間強雨に注意。南西諸島では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水にも注意。
- ④ 西～東日本では18日にかけて、北日本では19日にかけて、高気圧に覆われて広く晴れる。日中は気温が上昇し真夏日となる所がある。熱中症などの健康管理に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本としているが、2項③の下層暖湿気の流入は、モデル間の予想差が大きい事に留意。量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：沖縄100mm。②波浪(明日まで)：北海道・東北4、東海・北陸3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。